

令和3年12月2日

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群（ME/CFS）診療ネットワーク構築への提言
—COVID-19 後遺症患者の診療サポートも見据えて—

伴 信太郎（日本疲労学会理事／愛知医科大学医学教育センター特命教育教授）

倉恒弘彦（日本疲労学会理事／大阪大学大学院医学系研究科招へい教授）

大塚文男（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・総合内科学教授）

片岡仁美（岡山大学病院ダイバーシティ推進センター教授）

石川真紀[CFS（慢性疲労症候群）支援ネットワーク会長]

筋痛性脳脊髄炎（ME）/慢性疲労症候群（CFS）については、疫学研究で日本には10万人～30万人の患者の存在が推定されているにも関わらず、今なお病因が特定されておらず、治療法も確立されていないため医療関係者の間でも疾患としての認知度が極めて低く、患者の受診機会が極めて限られています。

また、昨年来猖獗を極めていた COVID-19 罹患者の10～60%が、急性期を過ぎても様々な症候が改善せず‘Long COVID’という呼称で問題になりつつあり、‘Long COVID’患者の約10%がME/CFSの診断基準を満たすと推定されています。

つきましては、下記のとおり提言いたしますので、特段のご理解を賜りますとともに、国民のための医療の充実のために貴省の積極的なご支援をお願い申し上げます。

提言

ME/CFS 患者が全国どこでも専門的な診察、治療を受けられる診療ネットワークの構築

- ① 総合診療医を中心とした ME/CFS の診療ネットワークの構築の支援
- ② ①の診療ネットワークと連携した保健所の相談機能の強化

① ②が実現すれば、以下のことも同時ないし順次進められると考えています

- 1) 科学的根拠に基づいた客観的な ME/CFS の情報の発信
- 2) 国民の理解を深めるための ME/CFS についての資料の提供
- 3) ME/CFS 発症と COVID-19 感染との関連性に関する正しい情報の発信
- 4) ‘COVID-19 後遺症’ 患者に対する診療サポート

※【参考資料】

Web 医事新報「COVID-19 後遺症の診療体制の構築を急げ—ME/CFS の診療経験から学ぶ」<https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=18368>